

I 自己評価

1 学校教育目標	1 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 2 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 3 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ 専門的知識や授業内容の信頼性に対する項目では、82.4%の生徒から肯定的に評価されている。 ・ 熱心に学習指導に取り組んでいるという項目では、80.7%の肯定的評価をされたが、昨年度より5.9ポイント下がった。 ・ 保護者に対するアンケートにおける肯定的評価が、ホームページでの情報発信が58.8%から74.1%へ、学校緊急連絡メールの活用が80.0%から89.1%へと上昇し、高く評価された。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 基礎的・基本的な学力の定着を図り、目的をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度の育成を目指す。 ◇ 授業を大切にし、1時間の授業目標とまとめを明確にすると同時に生徒一人一人が授業で充実感をもてるような指導方法の工夫、分かる授業、活気溢れる授業に努める。 ◇ 教育課程の研修を推進し、各学科の在り方、コース・系列における学習内容の充実と精選を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	◇ 生徒が学習する意義を正しく理解し、意欲的に授業に参加するために、教材研究を十分に行い、創意工夫を重ね、生徒が分かる授業に向けて日々研鑽する。 ◇ 生徒にコース・系列・科目選択の重要性を正しく理解させ、進路目標にあったコース・系列・科目選択ができるように努める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 家庭学習時間調査を実施し、生徒の学習に対する意識を高め家庭学習習慣の確立へと繋げる。 (2) 分かる授業を目指して教員間で授業を公開し、意見交換を通して授業改善に努める。 (3) 毎時間の授業目標を明確に示し、分かる授業を目指す。	(1) 家庭学習時間調査（前期中間考査前 前期末考査前） (2) 公開授業週間（5月・10月） (3) 生徒による授業評価（6月・11月）	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・ 家庭学習時間調査 ・ 教員相互の公開授業（5月 10月）	① ひとり平均 1日 85.8分 （平成28年度 67.7分） ② ひとり平均 3.2人の参観 （平成28年度 2.7人）	A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○熱心に学習指導に取り組み、専門的な知識が豊富で授業内容が信頼できると多くの生徒に評価された。 ○習熟度別授業や少人数授業に対する肯定的評価が、86.3%と高く評価された。 ○総合的な学習の時間と課題研究の授業内容が、生徒にとって有意義なものとなっている。 ▲学習指導全体の肯定的評価は78.8%から79.7%へと上昇したが、評価に関する肯定的評価が減少しており、評価の見える化が求められている。	
12 来年度に向けての改善方策案（学校評価アンケートを踏まえて） 本年度マニフェストでは、生徒による学校評価（学習指導の項目）の肯定的意見が80%以上となることを目指してきたが、「本校ではテストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」が75.4%の肯定的評価、「本校の先生は、授業を通して一人一人の能力の応じた指導を行っている。」では昨年度より上がってはいるものの肯定的評価が74.6%であった。全ての項目を80%以上の肯定的評価とするために、学校行事を精選したり、業務の重複をなくすなどし、生徒一人一人の気持ちに寄り添うことのできる時間を確保し、すべての生徒が、授業が分かることで喜びを感じることのできる学習指導へとつなげていきたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

【意見・要望・評価等】

- ・年1回から2回に増やした生徒による授業評価を、授業改善に生かす工夫をするとよい。
- ・少数であっても否定的評価があることを問題として捉え、少しでも改善するよう工夫するとよい。